

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

外国人観光客受入環境整備事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

福井市

3 地域再生計画の区域

福井市の全域

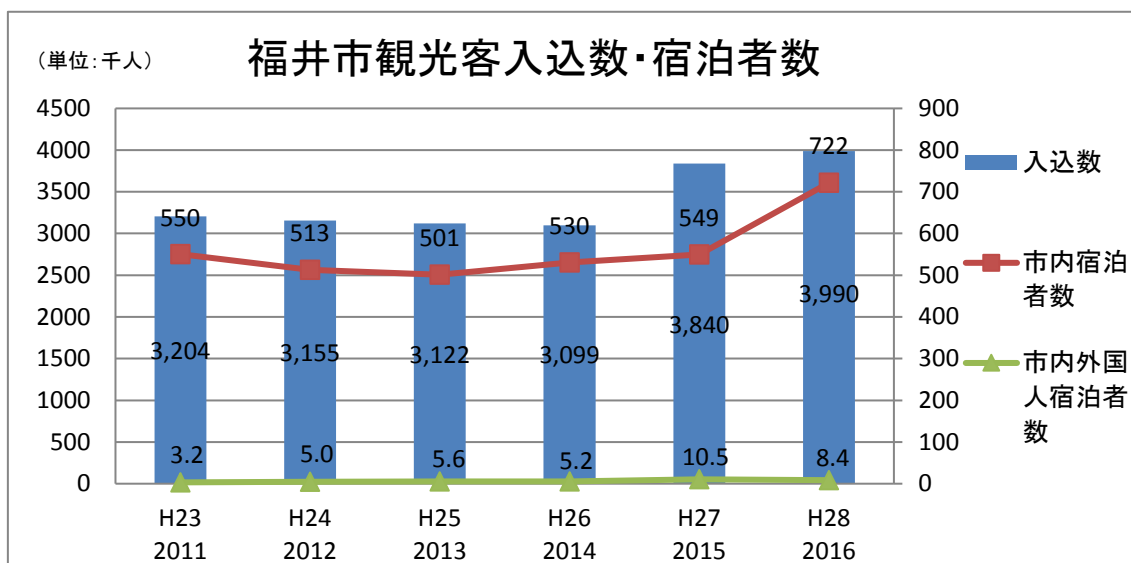
4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

本市は、九頭竜、足羽、日野の三大河川により形成された福井平野に位置し、明治22年の市政施行以降、福井県の政治、経済、文化の中心都市として発展を続けており、市内には公官庁やオフィス、宿泊施設や飲食店等が集積している。

また、本市の観光を取り巻く状況として、市では一乗谷朝倉氏遺跡や名勝養浩館庭園といった観光地をはじめ、春の「ふくい桜まつり」や夏の「ふくいフェニックスまつり」、秋の「宮ノ下コスモス広苑」、冬の味覚の王様「越前ガニ」といった四季を通した観光素材と宿泊施設等を組合せ、県内外にPRしている。市の観光客入込数は、平成23年に一乗谷を舞台とした携帯電話CMと、大河ドラマ「江」による全国的な露出効果で320万人に増加したが、その後3年間は減少傾向が続いた。しかし、平成27年は北陸新幹線金沢開業効果により過去最高の入込数を記録するとともに、平成28年には福井駅西口再開発ビル「ハピリン」のオープンにより、さらに増加している。

一方、交流人口の拡大や地域経済に大きく寄与するインバウンド観光については、全国的な活況とは対照的に、平成28年の福井県の外国人延べ宿泊者数は、54,360人と全国最下位に位置している（出典：「宿泊旅行統計調査」（観光庁））。本市においても、海外における知名度の低さや通訳ボランティア・多言語表示といった外国人観光客に対応した受入環境整備が進んでいない等の要因により、市内外国人宿泊者数は1万人を下回り、伸び悩んでいる。



4-2 地域の課題

北陸新幹線金沢開業効果や福井駅西口再開発ビルのオープン等により、観光客入込数は伸びているが、北陸新幹線金沢開業効果は徐々に薄れてきており、観光業の低迷による交流人口の減少や地域経済の停滞が懸念される。さらに、少子高齢化や人口減少社会による国内消費の減少を見据え、今後の大きな伸びが期待できない国内旅行者のみに頼るのではなく、観光消費額が大きく、地域経済へ寄与する外国人観光客の誘客対策が課題となっている。

しかし、県内に空港が無いことや、京都・金沢という観光地に挟まれているため、福井を訪れる外国人観光客は少なく、さらに、東尋坊や大本山永平寺といった外国人観光客が比較的多く訪れている近隣観光地には、あわら温泉や加賀温泉郷といった外国人が好む温泉地が近接しており、そちらに外国人宿泊客が流れるため、宿泊地としても選ばれにくい傾向にある。

外国人観光客を増やすためには、外国人観光客に選んでもらえる宿泊地となるよう、既存の宿泊施設・飲食店等の受入環境を整備することが喫緊の課題となっている。

4-3 目標

本事業では、平成31年の宇宙技術および科学の国際シンポジウム(ISTS)福井大会や平成32年東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、外国人観光客を呼び込む絶好の機会が訪れることから、外国人観光客が観光地や飲食店、ホテル等で安心して快適に過ごせるよう、通訳ボランティアの育成や多言語メニューの作製等により受入環境を整備することで、外国人観

光客の増加による観光産業振興を図る。

【数値目標】

事業	外国人観光客 受入環境整備事業	年月
KPI	市内外国人宿泊者数	
申請時	8,400人	H28.12
初年度	14,000人	H30.12
2年目	15,000人	H31.12
3年目	16,000人	H32.12

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

交流人口の拡大や地域の雇用創出に大きく寄与するインバウンド観光について、外国人観光客が観光地や飲食店等で安心して快適に過ごせるよう、福井市内の飲食施設等の看板や商品メニュー等の多言語化補助を実施するとともに、観光案内で活躍する通訳ボランティアの育成・増員を行う。

また、海外での認知度向上及び旅行商品の造成を図るため、海外旅行博での観光PRや旅行会社への営業活動、WEBやメディアを活用した観光プロモーションを行う。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

（1）事業名：外国人観光客受入環境整備事業

（2）事業区分：観光業の振興

（3）事業の目的・内容

（目的）

本市では、観光振興による交流人口の拡大と地域経済の活性化を目指し、平成28年3月に「福井市観光振興計画」を策定し、一乗谷朝倉氏遺跡や名勝養浩館庭園等に代表される観光素材を国内外にPRし、観光誘客に努めている。

本事業では、交流人口の拡大や地域の雇用創出に大きく寄与するイ

ンバウンド観光について、外国人観光客が観光地や飲食店等で安心して快適に過ごせるよう、通訳ボランティアの育成や多言語メニューの作製等により受入環境を整備することで、外国人観光客を増加させることを目的とする。

(事業の内容)

ISTS 福井大会や東京オリンピック・パラリンピック開催に伴い、外国人観光客を呼び込む絶好の機会が訪れることから、外国人観光客の受入環境を整備するため、福井市内の飲食施設、宿泊施設、土産品販売店、文化観光施設等に対し、看板、商品メニュー等の多言語化の補助を実施するとともに、観光案内で活躍する通訳ボランティアの育成・増員を行う。

→各年度の事業内容

- 初年度) ISTS 福井大会を見据え、観光施設に対する多言語表記支援(補助制度 市補助 1/2)、講習会等を通じた通訳ボランティアの育成
- 2年目) 東京オリンピック・パラリンピックを見据え、観光施設に対する多言語表記支援(補助制度 市補助 1/2)、講習会等を通じた通訳ボランティアの育成

(4) 地方版総合戦略における位置付け

本事業は、「福井市 まち・ひと・しごと創生 人口ビジョン・総合戦略」における基本目標2「福井の魅力を活かし、新しいひとの流れをつくる」のうち、基本的方向「福井のよいところ発信プロモーション」を推進する施策「広域観光の促進」に位置付けられる事業であり、地域資源を活かした海外からの観光誘客により新たな人の流れを生み出し、交流人口の拡大や本市のイメージアップを図るものである。また、この基本目標2のKPIとして、外国人宿泊者数(市調査)(現状8,400人→平成31年度16,000人)を設定しており、本計画はこの目標の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指数（KPI））

事業	外国人観光客 受入環境整備事業	年月
KPI	外国人宿泊者数	
申請時	8,400人	H28.12
初年度	14,000人	H30.12
2年目	15,000人	H31.12
3年目	16,000人	H32.12

(6) 事業費 (単位：千円)

外国人観光客 受入環境整備事業	年度	H30	H31	計
	事業費計		450	450
区分	委託料	300	300	600
	負担金、補助及 び交付金	150	150	300

(7) 申請時点での寄附の見込み (単位：千円)

年度	H30	H31	計
株式会社トマック	150	—	150
計	150	—	150

(8) 事業の評価の方法（PDCA サイクル）

(評価の手法)

大学、金融機関、福井商工会議所、市民団体等の有識者から構成する福井市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略有識者会議メンバーによる検証を行う。

(評価の時期・内容)

毎年度、KPIの達成状況を取りまとめ、大学、金融機関、福井商工会議所、市民団体等の有識者から構成する福井市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略有識者会議メンバーによる検証や議会の関与を得ながら、検証結果の報告をまとめる。

(公表の方法)

検証後速やかに市のホームページにて公表する。

(9) 事業期間

平成 30 年 4 月～平成 32 年 3 月 31 日

5-3 その他の事業

5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置
該当なし

5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(1) インバウンド推進事業

事業概要：台湾やタイ、フランスをターゲットに、現地旅行博への出展や現地旅行会社への営業活動、WEB やメディアを活用した観光 PR 等を実施し、海外における認知度向上や外国人観光客の誘客を図る。

実施主体：福井市

事業期間：平成 30 年度～平成 32 年度

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 33 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

大学、金融機関、福井商工会議所、市民団体等の有識者から構成する福井市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略有識者会議メンバーによる検証を行う。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年度、KPI の達成状況を取りまとめ、大学、金融機関、福井商工会議所、市民団体等の有識者から構成する福井市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略有識者会議メンバーによる効果検証を行い、改善点を次年度の事業内容に反映させる。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

検証後速やかに市のホームページにて公表する。